

とんぐい村の こみ・すく通信

令和3年9月10日発行 第12号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団の活動を紹介<その1>

よりよいコミュニケーションのために

8月24日、更別中央中学校1年生が学校応援団である「さらべつほーぷ」に来校いただき、「協力して生きていくためのコミュニケーションのコツ」について学びました。

「さらべつほーぷ」は診療所の山田医師を中心としたメンバーで、健全な自尊心を高め、自分らしくよりよい生き方を目指し、明るい家庭づくり、地域づくりを推進することを目的に立ち上げられた団体です。

2年ほど前から、小学校5年生～中学校3年生の各学年で授業をしていただいています。

今回は、ほーぷの片山先生(更農高教諭)が中心となり他のメンバーも一緒に授業を進めました。



積極的に意見を発表する更中1年生

【授業の流れ】

- (1) 小学校5、6年時の授業の振り返り
 - 05年生 個性があるって素敵なこと
 - 06年生 友だちの考えや意見を尊重して話し合おう
 - (2) 上手に話を聴こう
 - ① うなずく、あいづちを打つ
 - ② 相手の言葉をくり返す
 - ③ 質問をする
- 2人1組になって上手な聞き方の練習をする。

(3) あたたかいことばかけをしてみよう

- ① 相手の気持ちを受け止める
- ② 自分の気持ちを伝える
- ③ 前向きな言葉を添える

→ いろいろな不安な言葉に対して温かいことばかけを考え実際に話してみる。



さらべつほーぷメンバーによる「あたたかいことばかけ」の実演
「昨日、提出物の期限を間違えて出しそびれちゃって。先生にすごく怒られたんだ。」

「それは大変だったね。いつもよく頑張っているよね。次から気をつければ大丈夫だよ。」

【生徒の感想から】

あたたかい言葉がけをもっと上手にできるようになりたいと思った。

上手な聴き手のポイントを使うと会話がはずんだり話し手ももっと話したくなることを知って、使っていきたいと思った。

地域の虫博士の支援を受けて虫とり

8月20日、上更別小学校1、2年生が生活科の「生きものはかせになろう」という単元で、虫のことをよく知っている斎藤彦馬さんと一緒に「すももの里」で虫とりをしました。

始めはそんなに虫を見つけられないだろうと思っていましたが、斎藤さんのアドバイスを受け、子どもたちは「しば、まだらコオロギ」、いろいろな種類の「バッタ、キリギリス」など、どんどん虫を探し出しました。

「バッタは上に跳ぶので、コップはこっちからかぶせて。」「テントウムシはアブラムシを一日に50匹～100匹食べます。」など虫の採集や飼育について、たくさん教えていただきました。



とれた虫は、学校に持ち帰って実際に飼ってみるということでした。